



NEWS

「名誉県民」の称号を ファナック株式会社の故稲葉清右衛門名誉会長に贈呈



名誉県民顕彰式。左から桜本県議会議長、稲葉代表取締役会長、長崎知事



顕彰式で贈呈された名誉県民章



山梨近代人物館で開催している名誉県民顕彰特別展示

ファナック株式会社(忍野村)の創業者である故稲葉清右衛門名誉会長に県は「名誉県民」の称号を贈りました。

名誉県民は、社会の発展に卓絶した功績があり、県民が誇りとしてひとしく敬愛する者に贈る称号で、大村智北里大学特別栄誉教授に続き、2人目となります。

ファナック株式会社はロボットをはじめとする事業の展開により、世界の工場の自動化に貢献しており、本県のみならず、日本を代表する企業です。稲葉名誉会長は、社長時代に本県への本社移転や工場建設を行い、これ以後、地域経済と県政の発展に大きく貢献されました。今年同社が創立50周年を迎えることから、これに合わせて贈呈することとしました。

5月に行われた顕彰式では、稲葉名誉会長の長男である

稲葉善治代表取締役会長に名誉県民章などが手渡されました。

長崎知事は「稲葉名誉会長は、ファナック社を世界的企業に育て上げるとともに、事業活動を通じて、地域経済の発展や県財政に絶大な貢献をされました。まさに、社会の発展に卓絶した功績があり、私たち県民の誇りです」とたたえました。

稲葉代表取締役会長は「名誉会長に対し、栄えある『名誉県民』の称号をいただき御礼申し上げます。ファナックの役員・社員はこの名誉に恥じぬよう、社業の発展と地域への貢献にこれからも全力を尽くします」とあいさつしました。

今回の贈呈を記念した特別展示を、来年3月までの間、山梨近代人物館で行っています。稲葉名誉会長の功績の一端を知ることができますので、ぜひご覧ください(入館無料)。

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



子どもたちの悩みを一緒に考える「相談支援センター」を開所

いじめや不登校、ヤングケアラー、発達など子どもたちが抱える悩みの相談に応じる「相談支援センター」を県総合教育センター内に開所しました。

いじめや不登校などの問題は、さまざまな背景が絡み合っていることがあり、その解決を図るためには、あらゆる視点から要因を分析し、適切に支援へとつなげる必要があります。

そこで県では、児童生徒の悩み相談、心理相談を行うスクールカウンセラーや関係機関との調整などを行うスクールソーシャルワーカー、特別支援学校、支援学級などに関する相談に応じる職員を配置した「相談支援センター」を立ち上げました。相談支援センターでは、これらの専門家が連携して、児童生徒や保護者の悩みに対応します。

また、各学校の教員やスクールカウンセラー、各地域のスクールソーシャルワーカーなど、子どもたちの支援に携わる方に向けても相談や指導・助言を行っており、相談支援センターが中心となって関係者の専門性・資質向上を図ります。

この相談支援センターが、児童生徒や保護者と、関係者を双方から支援することにより、子どもたちが抱える悩みの円滑な解決につながっていきます。



相談支援センターの開所式



県内料理店×県産食材×県産酒で食の魅力を高める「やまなし美食ウィーク」を開催

県内外の方々に山梨の食の魅力を感じてもらうため、県内の料理店や宿泊施設が県産食材を活用した特別メニューを創作し提供する「やまなし美食ウィーク」を4月28日から5月15日まで開催しました。この間、29の料理店などで季節に合わせた特別メニューが提供されました。

また、この「やまなし美食ウィーク」に先立ち、県内外で活躍する料理人、料理評論家、飲食関係者など約40名が一堂に会し、県産の食材を活用した料理やワイン、日本酒を堪能するイベント「はじまりの食卓」を開催しました。イベントでは、県内で活躍するシェフによるフルコース料理や、県内ワイナリー・酒蔵のワインや日本酒などが提供されました。

こうした機会を通じて本県の食材やお酒の魅力が広く認められ、県産食材への評価の高まりや、本県への誘客の促進が期待されます。



当日提供された料理



先行イベント「はじまりの食卓」で食事を楽しむ参加者



県内の料理人が腕を振るった

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。